

## 令和4年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

松山小学校

### 1. 本校の教育目標

**一人一人の児童のすぐれた個性を伸ばし、広い視野をもって主体的に行動する力を養い、社会の変化に対応できる豊かな人間性をそなえた児童を育成する。**

### 2. 特別の教育課程の内容

#### (1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

#### (2) 特例の適用期間

平成28年4月1日～令和11年3月31日

#### (3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年

#### (4) 地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。

現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

#### (5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

#### (1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか。
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか。

#### (2) 自己評価

児童	<ul style="list-style-type: none"><li>・書写ノートで字を書く練習ができてよかった。</li><li>・水習字の時間がとても楽しみだった。</li><li>・消しゴム落款作りが楽しかった。</li><li>・学校で筆を洗うことができていたので、忘れ物をすることがなかった。</li><li>・体育館での書初め大会で、新鮮な気持ちになることができた。</li><li>・書道科補助員の方が、筆を一緒に動かしながら上手になる書き方を教えてくれたので、ためになった。</li></ul>
教員	<ul style="list-style-type: none"><li>・書道科補助員の方から、児童への専門的な指導による効果が高かった。</li><li>・水習字を活用することで、毛筆に慣れ親しませることができた。</li><li>・書の作品作りにも取り組ませることができた。</li><li>・高学年では教科書の文字のみならず、作品づくりに取り組むことができた。</li></ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"><li>・毛筆（書道）に興味を持つようになった。</li></ul>

#### (3) 学校関係者評価

- ・ホームページ等で、子どもたちの書の作品を見ることができることが良い。
- ・書の作品づくりや、書初め大会などの書を生かした活動がよいと思う。

#### (4) 課題

- ・学級担任が書道科の授業を担っていたが、書道科補助員との打合せの時間の確保が難しい。（年度初めは専科教員であったが、途中から変更したため）
- ・書道科講師の先生が中心となって授業を進めてくださるのは、低学年の水書のみで、高学年は学級担任が授業を進めている。打ち合わせ等の時間がとれないため、講師の先生の技術面のサポートを十分に受けることができなかった。
- ・書初め大会は限定した学年のみの実施となっているが、学校全体の行事へと移行することが検討課題である。
- ・半紙を書道科予算で購入しているが、年度初めの消耗品費だけでは賅うことができず、他の消耗品の購入が滞ってしまう。
- ・水習字用品や貸出用書道用品を用意しているが、その消耗品交換の時期について、見通しがもちにくい。